

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

がん患者の認知機能評価票 Cognitive Symptoms Checklist Work

21-item (CSC-W21) 日本版作成のための信頼性・妥当性研究

研究代表者 遠藤 源樹 順天堂大学公衆衛生学講座 准教授

<研究協力者>

佐藤 准子 順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教

三井 清美 昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座

研究要旨

がん治療と就労の両立支援を現場で効果的に行うためには、がん患者の認知機能を正しく評価することが必要である。しかしながら、がん患者の認知機能を評価する日本の質問票は見当たらない。そこで、がん患者の認知機能を評価する国際的な質問票である Cognitive Symptoms Checklist Work 21-item (CSC-W21) の日本版を作成するために、その信頼性・妥当性研究を実施する。乳がんと診断されて1年以上経過し、18～69歳のフルタイムかパートタイムで働いている女性を対象にがん患者 Web 調査を実施した。その結果、協力者は515名、乳がん診断時に働いていた人は87.4%で、パート・アルバイトが半数近くを占め、デスクワーク中心の仕事内容の人が半数以上であった。また、多くの人が軽度の疲労状態にあり、30.7%の人が不安状態にあった。仕事に対しては、記憶に関する項目が難しいと答えた人の割合が高く、業務遂行に関する項目に難しいと答えた人の割合が少なかった。また、休憩なしで働くことが困難である割合が多く、一方、仕事の手順やスケジュールを守ることは困難である割合が少ないことが報告された。CSC-W21 の日本版作成に向けて、引き続き信頼性、妥当性研究を進めていく。

A. 研究背景および目的

本研究の目的は、がん患者の認知機能を評価する国際的な質問票である Cognitive

Symptoms Checklist Work 21-item (CSC-

W21) の日本版の信頼性・妥当性研究を実施することである。遠藤らは、米国の Michael

Feuerstein 博士 (Journal of Cancer Survivorship 編集長) から CSC-W21 日本版 (案) 作成の依頼を受け、Back Translation を行って CSC-W21 日本版 (案) を作成してきた。本研究により、日本で初めての就労するがん患者の認知機能を評価する質問票を開発することができ、がんに罹患した労働者の認知機能向上に向けた、効果的な支援を行うことにつながると考えている。

B. 方法

2017 年 6 月 22 日に、遠藤は渡米して、Michael Feuerstein 博士と、本研究に関するミーティングを実施して、研究計画を策定した。本研究は、疾患パネルをもつ調査会社に登録されているがん患者を対象とし、全て Web ベースでの回答にて調査を行った。対象者は、調査会社に登録している、乳がんと診断されてから 1 年経過し、フルタイムかパートタイムで働いている、18 歳から 69 歳までの女性である。信頼性研究は、CSC-W21 日本版 (案) を再テスト法にて行い、妥当性研究は、CSC-W21 日本版 (案) と Work Limitation Questionnaire (WLQ) 日本版、Hospital Anxiety and Depression scale (HADS) 、 Brief Fatigue Inventory (BFI) 日本版と比較することにより実施する。WLQ 日本版を使用するにあたって、米国・タフツ大学と順天堂大学の間で、WLQ 日本版の使用に関する契約を交わしている。

以下の A, B, C の 3 種の調査を行う予定である。本報告においては主に A 調査における対象者の実態を、割合を算出して報告する。【A 調査】として、乳がんと診断されて 1 年経過し、フルタイムかパートタイムで働

いている 18~69 歳の女性を対象として、年齢、婚姻状況、WLQ、HADS、BFI と就労状況に関する実態調査、【B 調査】 A 調査の対象者から年齢、婚姻状況、学歴、勤務形態をマッチングさせた 100 名をランダムに抽出し、がんと診断されたことのない健常者の女性 100 名と比較する。【C 調査】 A 調査の対象者に、A 調査回答後 2 週間後に CSC-W21 日本版 (案) を再度実施する。

C. 研究結果

1) 調査実施時期と対象者の属性 (年代、婚姻状況のみ A, C 調査)

A 調査は 2018 年 1 月 18 日に、C 調査は 2018 年 2 月 1 日に実施した。A 調査の回答者は 515 名、C 調査の回答者は 412 名であった。

年代は、A 調査、C 調査とも 50~54 才が最も多く、55~59 才、45~49 歳の順で割合が高かった。婚姻状況は、A 調査、C 調査とも既婚者の方が未婚者より多い結果となった。

最終学歴は、高校卒業が最も多く、次いで、短期大学卒業、大学卒業の順で割合が高かった。

2) HADS

HADS は、不安状態にある人が 30.7% で抑うつ状態 12.6% を上回った。

3) BFI

BFI は、疲労の度合いが軽症に属する人が 61.4% で半数以上の人が軽い疲労を感じている結果であった。また、中等症の人が、だるさがない人を上回り、多くの人が疲労を感じていることが示された。

4) 就労状況

A 調査においてがんと診断時に働いていた人は 87.4% であった。また、調査実施時

の職業はA調査、C調査とも、パート・アルバイトが最も多く、次いで事務系の会社員であった。

5) CSC-W21 日本版 (案)

「のどまで出かかっていることを思い出すことが難しい」「見なれたものや身近な人の名前を思い出すことが難しい」等、記憶に関する項目に困難を感じている割合が高く、「仕事を完了するまで業務を続けることが難しい」「仕事や活動のすべての手順を完了することが難しい」等業務遂行に関する項目は困難を感じている割合が少ない傾向が認められた。

6) WLQ

「職場に着いたら、すぐに仕事を始めること」「所定の手順やスケジュールを守ること」等時間管理に関する項目は困難な時間が少なかった。一方で、時間管理の中でも「ひと休みや休憩をとらず仕事をする」と「仕事に、読むなど、目を使うことが楽にできること」等集中力に関する項目が困難である時間が多いことが報告された。

D. 結論と今後の予定

A調査の参加者は、50～54才が最も多く、既婚者の割合が高かった。最終学歴は、高校卒業が最も多く、がん診断時に働いていた人は87%であった。パート・アルバイトが最も多く、デスクワーク中心の仕事内容が多い結果であった。引き続き、CSC-W21日本版の信頼性、妥当性研究を進めていく。

E. 学会発表

1. 論文発表

今後、論文の投稿を予定している。

2. 学会発表等

今後、学会発表を予定している。

3. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(参考文献)

1. 角田ゆう子、福間英祐、和田守憲二、比嘉国基ほか. 乳癌術後外来患者の HADS score による精神的 QOL の検討. 日本臨床外科学会. 66(1). 1-6. 2005.
2. Okuyama T, Wang XS, Akechi T, Mendoza TR, Hosaka T, Cleeland CS, Uchitomi Y. Validation study of the Japanese version of the brief fatigue inventory. J Pain Symptom Manage. 25(2). 2003.

表1 A調査：年代、婚姻状況、就労状況、職業、仕事内容、最終学歴、HADS, BFI, CSC
 C調査：年代、婚姻状況、職業、CSC

項目	項目(下位項目)	A調査(n=515)		C調査(n=412)	
		n	割合(%)	n	割合(%)
年代	25才～29才	1	0.2	0	0
	30才～34才	2	0.4	1	0.2
	35才～39才	19	3.7	12	2.9
	40才～44才	47	9.1	39	9.5
	45才～49才	115	22.3	89	21.6
	50才～54才	139	27	117	28.4
	55才～59才	124	24.1	110	26.7
婚姻状況(1)	60才以上	68	13.2	44	10.7
	未婚	197	38.3	158	38.3
	既婚	318	61.7	254	61.7
婚姻状況(2)	結婚したことがない	117	22.7		
	結婚している	314	61		
	結婚後に離婚した	78	15.1		
就労状況	結婚後に死別した	6	1.2		
	診断された日に働いていた	450	87.4		
職業	診断された日に働いていなかった	65	12.6		
	公務員	21	4.1	20	4.9
	経営者・役員	8	1.6	4	1
	会社員(事務系)	94	18.3	69	16.7
	会社員(技術系)	16	3.1	13	3.2
	会社員(その他)	72	14	62	15
	自営業	23	4.5	18	4.4
	自由業	14	2.7	12	2.9
	専業主婦(主夫)	23	4.5	21	5.1
	パート・アルバイト	217	42.1	171	41.5
	学生	0	0	0	0
	その他	21	4.1	17	4.1
	仕事内容 (複数回答)	無職	6	1.2	5
デスクワークが中心		264	58.7		
からだをよく使う仕事为中心		162	36		
営業職		12	2.7		
その他【 】		22	4.9		
中学卒業		3	0.6		
高校卒業		196	38.1		
最終学歴	短期大学卒業	122	23.7		
	専門学校卒業	72	14		
	大学卒業	114	22.1		
	大学院卒業	7	1.4		
	その他【 】	1	0.2		
HADS	抑うつ状態	65	12.6		
	不安状態	158	30.7		
	不安・抑うつ状態	76	14.8		
BFI	だるさなし	69	13.4		
	軽症	316	61.4		
	中等症	109	21.2		
CSC	重症	21	4.1		
	何を書こうとしていたのかを思い出すが難しい	82	15.9	50	12.1
	話している時に、自分の思考過程を思い出すが難しい	88	17.1	77	18.7
	電話で話した内容を思い出すが難しい	58	11.3	50	12.1
	会話や会議の内容を思い出すが難しい	64	12.4	45	10.9
	言いたい言葉を思い出すが難しい	151	29.3	123	29.9
	見なれた物や身近な人の名前を思い出すが難しい	162	31.5	132	32.0
	「のどまで出かかっている」ことを思い出すが難しい	210	40.8	178	43.2
	頼まれたことをすぐに思い出すが難しい	63	12.2	34	8.3
	仕事全体の過程を理解することが難しい	54	10.5	28	6.8
	ある業務が、作業計画や作業過程と、どれくらい適合しているのかを理解することが難しい	49	9.5	40	9.7
	問題解決するための情報がどこにあるのかを記憶しておくことが難しい	65	12.6	49	11.9
	異なる事柄が全体の中でどこに位置しているのかを理解することが難しい	55	10.7	53	12.9
	どのように決定されたのかを把握することが難しい	48	9.3	38	9.2
	自分の知見を見直すために、新しい情報を活用することが難しい	82	15.9	57	13.8
	見聞きすることの一部だけに焦点を当ててではなく、全体を考慮することが難しい	73	14.2	58	14.1
	問題が起こった時、何が問題であるかを理解して、問題が何であるかを的確に理解するのが難しい	68	13.2	50	12.1
物事の流れをたどることが難しい	48	9.3	28	6.8	
グラフやフローチャートを理解することが難しい	74	14.4	74	18.0	
仕事や活動のすべての手順を完了することが難しい	44	8.5	32	7.8	
仕事を完了するまで、業務を続けることが難しい	41	8.0	16	3.9	
最も重要な手順が最初に来るように、優先度順に手順を並べることが難しい	49	9.5	41	10.0	

表2 A 調査における WLQ

この2週間の間、 あなたの身体的な健康状態やこころの問題によって 以下のことを行うことが、 困難だった時間はどれくらいの長さでしたか？	すべての 時間、困難 だった (100%)	ほとんどの 時間、困難 だった	ある程度の 時間、困難 だった(約 50%)	わずかな 時間、困難 だった	困難な時 間はなかつ た(0%)	私の仕事 には、あて はまらない
決められた時間、仕事をする事	0.4	1.4	8.3	21	61.9	7
勤務日の始まりに楽に仕事に出かける事	0.6	3.7	8.7	20.6	58.6	7.8
職場に着いたら、すぐに仕事を始める事	0.8	1	5.6	10.7	73.4	8.5
ひと休みや休憩をとらず仕事をする事	2.5	2.7	8	20.6	50.1	16.1
所定の手順やスケジュールを守る事	1.6	1.2	4.1	13.2	72.4	7.6
仕事のことを考え続ける事	0.4	2.9	7.8	21	63.5	4.5
仕事中、クリアに考える事	1	2.7	7	25	59.6	4.7
注意深く仕事をする事	1.4	2.5	6.4	27.6	59.2	2.9
仕事に集中する事	0.8	3.5	6.8	27.8	58.3	2.9
思考の脈絡を失わずに仕事する事	0.6	2.9	6.6	20.2	64.1	5.6
仕事中に、読むなど、目を使うことが楽にできる事	1.7	2.7	8.9	25.4	55.3	5.8
個別に対面で、会議に参加して、あるいは電話で人と話しをすること	1.2	1.9	3.7	10.9	61.9	20.4
仕事中、周囲の人に関係する感情をコントロールすること	1.4	2.5	7.6	18.3	61.2	9.1
他の人が仕事を成し遂げるのを手助けすること	0.6	2.5	3.7	9.7	67.4	16.1
仕事をこなすこと	0.8	1.9	7.2	19.8	67.4	2.9
十分に迅速に仕事をする事	1.2	2.7	8.3	24.3	60.8	2.7
時間通りに仕事を完了すること	0.8	3.3	7.6	17.1	66.8	4.5
間違いのないように仕事をする事	0.8	2.3	7	23.9	62.9	3.1
自分にできることは成し遂げたと感じる事	1.4	3.5	5.8	16.5	69.5	3.3
	すべての 時間 (100%)	ほとんどの 時間	ある程度の 時間(約 50%)	わずかな 時間	全くない (0%)	私の仕事 にはあては まらない
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因する困難がなく、 職場内を歩くまたは移動すること (例えば、会議に出席することなど)が 可能な時間がどれくらいありましたか？	40	22.5	8.3	8.5	12.4	8.2
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因するような困難がなく、 仕事中に10ポンド(約4.5kg)以上の物を持ち上げたり、 運んだり、動かしたりすることが可能な時間がどれくらいありましたか？	22.3	12.4	10.3	15.3	12.6	27
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因するような困難がなく、 仕事中に15分間以上座っていたり、立ったままでいたり、 ひとつの姿勢を保つことが可能な時間がどれくらいありましたか？	42.7	25.4	12.6	8.3	6.8	4.1
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因するような困難がなく、 仕事中に何度も同じ動きを繰り返すことが可能な時間が どれくらいありましたか？	39	22.9	12.4	9.1	7.2	9.3
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因するような困難がなく、 仕事中に体を曲げたり、ねじったり、物を取るために 身を乗り出したりすることが可能な時間がどれくらいありましたか？	33.6	20.4	14.8	13	8	10.3
この2週間の間に、 身体的な健康状態やこころの問題に起因するような困難がなく、 手持ちの小さな道具や機器 (例: 電話、ペン、キーボード、パソコンのマウス、ドリル、ヘヤドライヤー、研 磨機) を使用することが可能な時間がどれくらいありましたか？	46.8	18.6	12.6	10.1	4.7	7.2